

令和8年度 東宮永小学校学校経営全体構想

教育目標（長期的な目標）

共に学び、心豊かでたくましい子どもの育成

<めざす学校像>

- 子どもが自分の成長を感じ、生き生きと活動する楽しい学校
- 社会性を身に付け自立できるよう子どもを鍛える学校
- 子どもが安心して学べる学習環境を教員、保護者、地域で創り出す学校

<めざす児童像>

- ①【豊かな心】 自他の良さを認め合い、互いに大切に子ども社会の一員として、互いに支え合っている子ども
- ②【自ら学ぶ意欲】 集中して学習し、粘り強く学び続ける子ども学習の成果（自分の伸び）を実感できる子ども
- ③【たくましさ】 夢や目標をもち、粘り強く挑む子ども運動に親しみ、元気よく活動する子ども

<めざす教師像>

- ①確かな児童理解のもとに、共通の目標に向かって教育活動に取り組む教師
- ②使命感と責任感をもち、一人一人の子どもによさや可能性を伸ばす教師
- ③自己研磨を常に行い、子ども、保護者、地域から信頼される教師

<児童の実態>

- ① 基礎学力は定着しつつあるが、自ら学ぶ意欲や学力の二極化、思考力・判断力・表現力等の向上に課題がある。
- ② 自分で考え、行動する主体性のある児童が少ない。
- ③ 自分のよさに気づき、それを伸ばそうとする態度が低い。
- ④ 基本的な生活習慣を身につけ、外遊びの習慣化。

<教職員の実態>

- ① キャリアに応じた学習の指導力が身につけているが、子どもの主体的な学びを重視する授業には抵抗がある。（これまでの学習指導に固執している）
- ② 支持的風土づくりを土台とした学級経営力はあるが、児童の特性に応じた指導や個別の生徒指導については、自信を持っていない。
- ③ 職員同士のコミュニケーションがとれ、共同作業も連携が取れる。新しいことにチャレンジすることには、抵抗がある。

<教育課題>

- ① 基礎基本の確実な定着、思考力・判断力・表現力の育成
- ② 学力の二極化の改善
- ③ 粘り強く取り組む態度、主体的に取り組む態度
- ④ 基本的な生活習慣の定着、運動の二極化

<経営課題>

- ① 教師の授業力の向上
- ② 支持的風土を大切にした学級経営
- ③ 重点目標達成に向けた組織力・経営参画意識の向上

【中期的な教育目標（3年間で身に付けさせたい力）】
「自分で考え、最後まで粘り強く取り組む子どもの育成」

【中期的な経営戦略】

- ① 教育活動「基礎・基本の確実な定着、思考力・表現力の向上、よりよい人間関係の育成をねらいとする教育課程の編成・実施・評価及び管理の充実」
- ② 組織・運営「協働的な組織運営と危機管理の徹底、働き方改革の推進」
- ③ 人材育成「授業観の転換・学級経営力の向上、日々の授業に生かせる研修観の転換、OJTの取組」
- ④ 学校運営協議会と地域学校協働活動の推進、児童と教師が安心安全な環境の整備

【本年度の重点目標】
自ら考えながら、行動する子どもの育成

【本年度経営の重点】

職員自ら主体的に学び、粘り強く指導できるチーム東宮永小

《 組織・運営 》

- ①心理的安全性を重視した協働体制（協働、挑戦、新奇歓迎）
 - 教頭、担当者のリーダーシップ
 - 2部会の機能化（PDCAサイクル）と組織的取組
 - 三者会→教頭・主幹教諭→部長・担当のラインの確立
- ②危機管理の徹底
 - 不祥事防止のための職員研修
 - いじめ、不登校への組織的対応
 - 安全意識の向上と安全確保の徹底のための重点化
 - 指導の困難な子どもの指導、保護者対応等についての記録の蓄積（組織的対応）
 - 危機管理マニュアルの改善と訓練、安全教室等の効果的実施
- ③教職員の働き方改革の推進
 - 校務DXの推進（ICT活用）
 - 教育課程編成や週時程の見直しによる、放課後の学級事務の時間確保
 - 定時退校日の定例化（毎週火曜日）

《 教育課程 》

- ①教育課程編成の基本方針(重点事項)
 - 基礎・基本の確実な定着、思考・判断・表現力等向上の推進
 - 算数科を中心とした、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を位置づけた授業改善の推進
 - 子どもの思いや願い大切にし、主体性を育てる特別活動（学級活動、児童会活動、学校行事）
 - アウトプットする「ふるさと学習」の実践
- ②教育課程の編成・実施・評価・管理の工夫
 - 編成 国語科「読むこと」、算数科「測定」「図形の重点領域学級活動（1）や児童会活動、学校行事の主体的な活動の重視総合的な学習の時間等での「ふるさと学習」の充実
 - 実施 児童の課題意識を大切にした授業作り算数科における「一斉授業」と「個別学習」を位置づけた単元構成を工夫、児童の思いを大切に企画、運営する特別活動の実施、「東宮永スタンダード」の実践
 - 評価 重点目標達成のための教師・児童の評価と子どもへのフィードバック
学力や生活面を目標値に照らして評価
 - 改善 重点目標評価を生かした指導内容等の改善
 - 管理 学力や生活面のデータからの指導改善
週案・授業研・教室訪問で量的、質的管理

《 人材育成 》

- ①授業力の向上
 - 確かな教材研究に基づいた授業づくり
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を位置づけた単元計画づくり
 - 基礎基本の確実な習得及び主体的に学ぶ授業改善の推進（重点授業）
 - 授業研究における外部講師の積極的な活用
 - 校内研修の進め方の工夫
 - ニーズや教師自身のキャリアアップな一般研修の実施及び校外研修への積極的な参加
- ②学級経営力の向上
 - 児童理解を大切に、子どもの主体性を大切にした学級経営
・児童の思いや願いを大切にした学級活動や学校行事を中心とした指導
 - ・学級経営案（自己評価表）によるPDCAサイクルの構築と活性化
- ③OJT、OFF-JTの取組
 - ミニ研修会による授業力の育成（ニーズに応じた）
 - 教育センター、教育事務所研修の復命、サークルへの参加、教育論文応募等

《教育環境》

- 校舎内外の環境づくりにむけて
 - ・重点目標に向けた活動が見える環境（校内掲示、教室環境まで）
 - ・学校図書館内外の環境の工夫
 - ・保健衛生に対する意識向上のための保健室内の環境の工夫
 - ・整理整頓された教室、授業に活用しやすい教具室等の整備

《連携》

- コミュニティスクール推進に向けて
 - ①開かれた学校づくりの充実
 - ・外部のヒト・モノを活用した教材の開発と学習の検討
 - ・地域学校協働活動本部との連携（地域人材の活用）
 - ・学校の魅力ある取組を伝える学校だよりの定期的な発行
 - ・地域民会議による学校訪問
 - ②幼保小中の連携した取組の実施
 - ・柳城中学校区スタンダードの取組み（本年度見直し）
 - ・1年生と幼保との交流授業

《評価等》

- ③学校運営協議会での評価・改善
 - ・学校経営の説明と評価・改善
 - ・「熟議」を通して地域との連携
 - ・協働活動の推進と見直し
- ④各種評価の充実
 - ・重点目標評価（教師・児童）の定期的な実施とPDCAサイクルの機能化
 - ・児童への生活アンケートの実施と「見える化」したフィードバック